

第6回 津市「学びの会」  
学びの共同体 第2回夏季研修会  
環流報告

発表者：津市立南が丘小学校  
教諭 伊藤暢浩

# 協同的な学びによる授業の改革

平成24年8月6日(月)

学習院大学文学部

佐藤 学 教授

# 学力の向上に関して

- 言語活動の重視→話し合い活動ばかりになっている。学び合い≠話し合い。
- 質の高い学びをどう実現するか。  
量→質の時代へ。  
先進国：質。 途上国：量。  
フィンランド：授業時数が一番少ない。

# 21世紀の学校と協同的な学び

- 21世紀型の学校は質と平等の同時追求。  
エリート教育の失敗(ドイツ・インド)。
- カリキュラム＝プログラム型(階段型:目標一達成一評価)からプロジェクト型(登山型:主題一探求一表現)へ。
- 授業＝一斉授業(北朝鮮・日本)から協同的な学びへ。
- 教師＝教える専門家から学びの専門家へ。  
修士課程, 6年の養成制度。  
学校が教師を育てる場に。
- 〈言葉:経験〉〈探求〉〈アート:身体技法〉〈市民性:仲間〉の教育＝カリキュラムの基本領域。

# 「学びの共同体」は21世紀型の学校

## 【改革の現在】

- 現在小学校約1500校，中学校約2000校，高校約300校，パイロットスクール約300校。
  - 三重県一熊野市，尾鷲市，紀宝町，紀北町。
  - 都道府県ごとの「学びの会」の発展と拡大。  
ゲリラ戦だけではなく，行政の力も必要。  
拠点校が必要である。
- ※ 子どもは学び続ける限り決して崩れない。

# 学びの共同体のヴィジョン

- 学校の公共的な使命と責任  
「一人残らず子どもの学ぶ権利を保障し、  
その学びの質を高める。」→「民主主義社会を  
準備する。」→対話による授業。
- 一人一人の違いが学びの幅を生み出す。
- 互恵的な学びを実現する。  
相手のためにやることは自分のために。自分の  
ためにやることは相手のために。もろさがつなげる。
- 同僚を信頼すること。  
不適格にされてきた教員。

# 話し合い・教え合いと学び合いは違う

- 「はい！はい！」と子どもが分かっていることを発表し合う授業は学びがない。→学びとは既知の世界から未知の世界への旅。
- つぶやきの交流が決め手。
- 学び合いは一人一人が主人公→対話が生まれるリーダーを決めない。まとめのプレートなどを使わない→後の人はお付き合いになってしまう。
- あくまでも学びは個人の作業であって、学び合いは個の作業の協同化。個を豊かにするための協同作業。

# 話し合い・教え合いと学び合いは違う

【なぜ「学び合い」が「話し合い」になりがちなのか？】

- 協同的な学びの訳語の問題

「協力的学び (cooperative learning)」

ジョンソン兄弟

個人でやるより、全員でやった方が生産性が上がる。

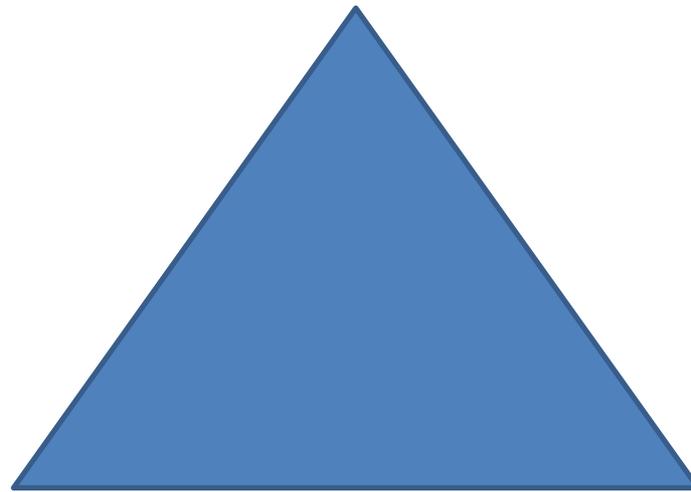
形式主義，生産主義。

# 話し合い・教え合いと学び合いは違う

- 「協同的学び (collaborative learning)」  
ヴィゴツキー・デューイ  
協同によって、より高いレベルに相互に高まり合う。
- 対話的コミュニケーション(協同)による、文化的  
内容の認識活動に重点が置かれる。

# 学びの成立要件

真性の学び=  
教科の本質に即した学び



学び合う関係  
(聴き合う関係)

ジャンプのある学び  
(可能な限り高いレ  
ベル)

# 各教科における真性の学び

- 文学の学び＝主題を追求しない。気持ちを問わない。なぜと問わない。＝文学的言語の学び，不条理の真実を学ぶ。
- 科学の学び＝実験と観察をふまえた「モデル」による探求。
- 社会科の学び＝課題と資料が決め手＝事実に基づく問題解決的思考。
- 数学の学び＝数学的推論の学び。
- 英語の学び＝言葉の学び。会話教室ではない。
- 体育は？

# 学力向上のための要点

- 〈質の高い学びの経験〉の実現を目的とし、その結果学力が向上する。
  - 学力の向上はB問題（発展）において起こり、それに続いてA問題（基礎）が向上する。  
→教育内容レベルを上げて、下位層を減らす。
  - 学力の向上は「二段ロケット」で進行する。
    - ①低学力の子どもの学力を向上。
    - ②中位以上の子どもの学力の向上。
- ※ 共有を丁寧に、ジャンプを大胆に

# 専門家としての教師の成長

## 【2つの側面】

### ① 「職人」としての成長

技法とスタイルの形成＝「伝承」と「模倣」による学び。

### ② 「専門家」としての成長

理論と実践の統合＝「ケースメソッド」(事例研究＝授業研究)による学び。＝〈デザイン〉〈省察〉〈判断〉の能力を高める。

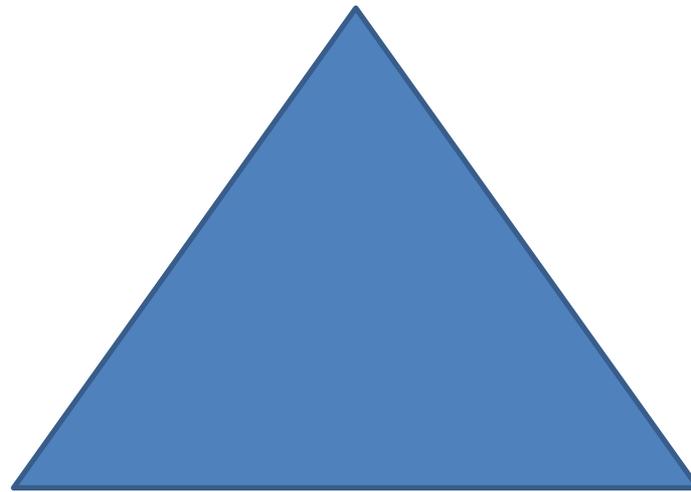
## 【知識基礎】

- ①市民的教養 ②教科の教養 ③教育学の教養

# 教師の専門的成長の3つの内容

職業倫理

公共的使命と教師の自律性



職人性  
技法

専門性  
知識と理論

# 結論＝「質の高い学び」の創造によって学校改革を前進させる。

- 〈授業づくり〉は〈学校づくり〉の中心＝〈授業づくり〉は〈同僚性〉構築の基礎である。
- 何よりもビジョンが優先する。＝他校の観察が重要。実践から学ぶ。
- 「学びの共同体」は子どもと教師の〈幸福追求の教育改革〉。
- 学校改革は〈静かな革命〉であり〈長い革命〉である。
- 焦らず，希望を失わず，粛々と推進する。

第6回 津市「学びの会」  
学びの共同体 第2回夏季研修会  
環流報告

発表者：津市立南が丘小学校  
教諭 伊藤暢浩